

広域災害に絶え得る 地域医療連携クラウド

三菱電機インフォメーションテクノロジー
荻野 正

広域連携医療ネットワークシステム研究会

- Global Collaboration Medical Network System Committee(<http://www.gcm-ssso.jp/>)

NPO法人

広域連携医療の実現を目指す



広域連携医療ネットワークシステム研究会

NPO法人

- Global Collaboration Medical Network System Committee(<http://www.gcm-sso.jp/>)



広域連携医療サービスのモデル化

(d) Global Collaboration Medical Service

Remote Medical Service

(c) Local Collaboration Medical Service

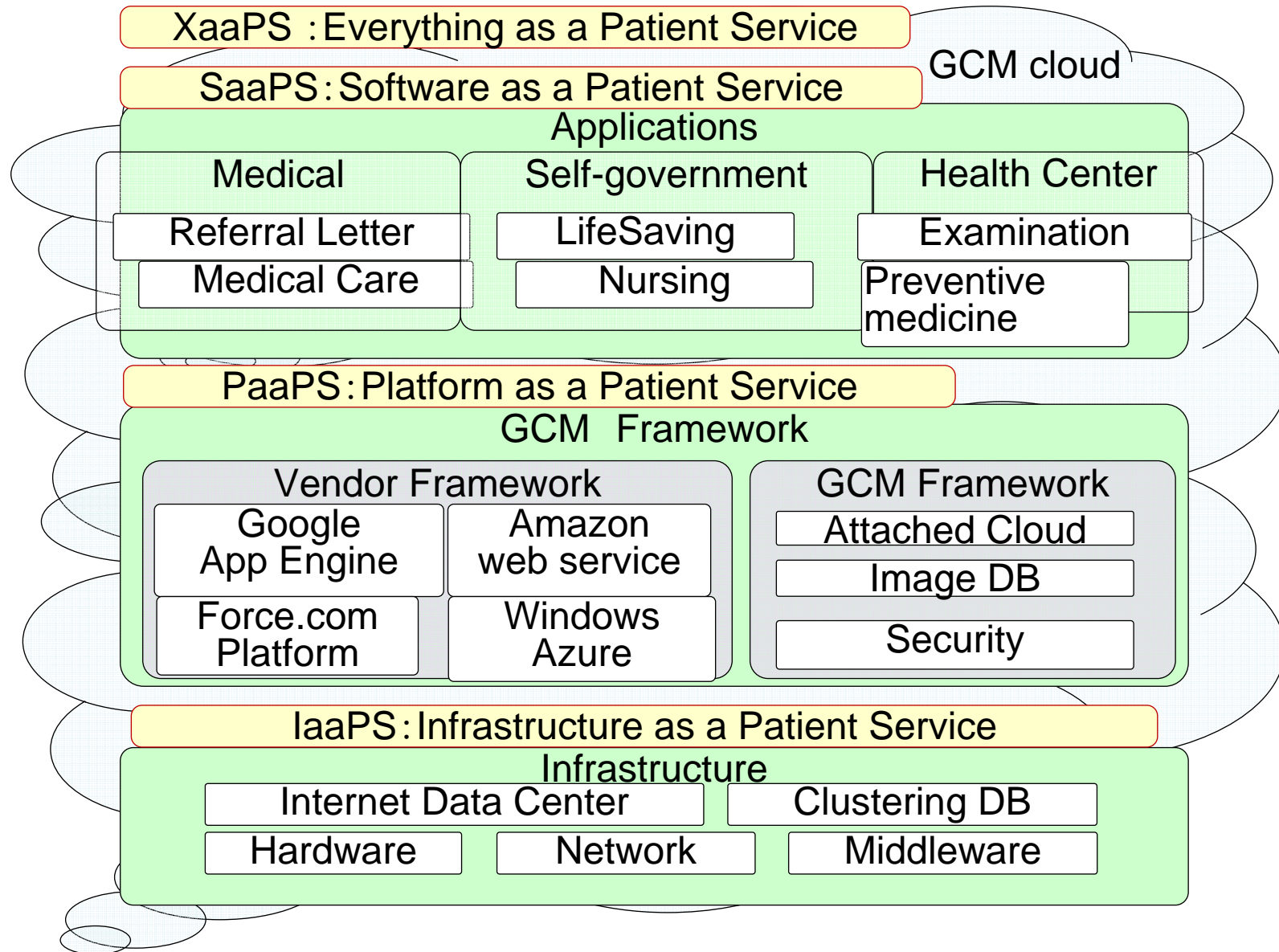
Emergent Service

(b) Inter Hospital Medical Service

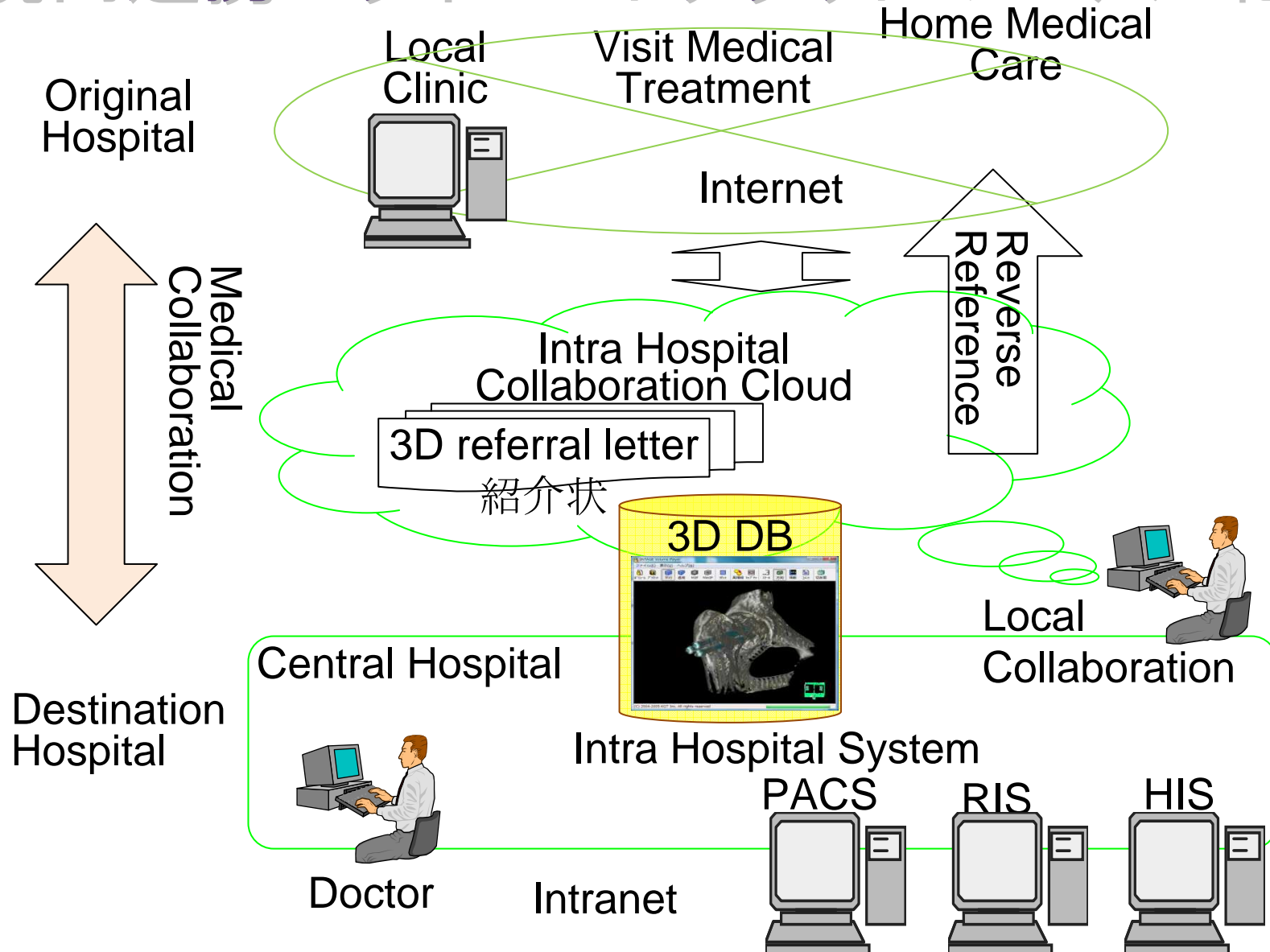
Home Medical Care

(a) Intra Hospital Service

クラウド型広域連携医療サービスのモデル化

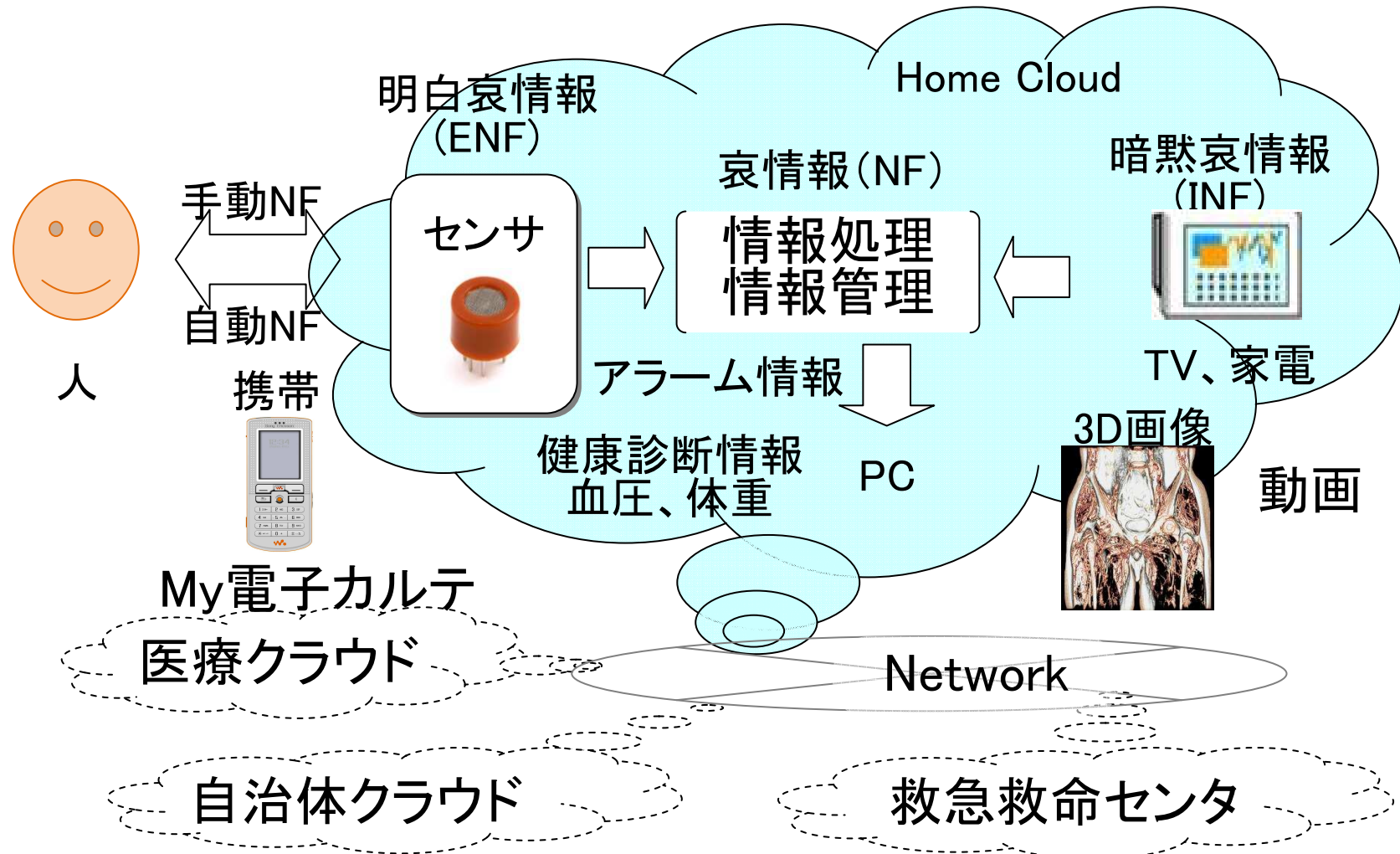


院内連携プライベートクラウドのモデル化



生命活動情報と衰情報の可視化

アライブセンサ網



BCPへの考え方

- クラウドの利用
 - バックアップの多重化
 - 災害地から離れたデータセンタでの稼働
- ローカルはUPSやモバイル端末

ほんとうに大丈夫？

東日本大震災での検証

- ライフライン
 - 電気、ガス、水
- 情報インフラサービス
 - 携帯電話、携帯メール
- 物流
 - 道路、ガソリン
- 情報の錯綜
 - 避難所、病院・薬局、どこに何が必要？
- 人
 - 被災者、医療スタッフ etc.

ライフライン

- 電気
 - UPS、自家発電
 - 長期を想定
 - 究極は、分散化、地産地消
 - スマートグリッド(の応用問題)
- ガス、水道 etc.
 - スマートxxx

情報インフラ

- 実は、パケット通信は生きていた？
- 衛星電話、衛星インターネット
- バッテリー付き端末
 - スマートフォン、タブレット端末で対応できるように

物流

- 位置情報付きでの被災情報の可視化
- 在庫情報の可視化
 - 複数の企業をまたがったシステムの重要性
 - 避難所、医療現場の情報も必要

正確な情報

- 通信インフラの確保が大前提
 - 避難所データベース
 - 放射能情報
 - 停電情報
-
- 個別システムを、必要に応じて立ち上げる？
 - 情報を集める仕組みは必要

人

- 事前の準備
- 人的ネットワークにリアルタイムにアクセスできること
 - メール、Facebook、Twitter

まとめ

- ITは結構役に立つのではないか？
- 事前の準備が必要
- 有志による迅速な対応
 - オープンソースに通じる？